

令和3年（戦後76年）

パネル展：令和3年7月24日～8月29日 秋津公民館

「熊本市東部の発展と戦争遺産（光と影）」

◆熊本市民病院は、熊本地震で被害を受け、令和元年（2019年）に東区湖東から現在の場所（東区東町）に移転（再建）しました。実は、「もどってきた」とも言えます。

◆現在の健軍駐屯地（自衛隊）や健軍界隈の敷地は、「三菱重工業（株）熊本航空機製作所」跡地に関係するところが多く、熊本市民病院の前身である三菱付属病院は、健軍四つ角（健軍電停終点付近）の北東のところに建設される予定でした。諸事情により、湖東にあった三菱の寮を付属病院として利用し、戦後熊本市民病院になっていきました。

約70年の時を経て、東町の地（三菱関連施設跡地）に「もどってきた」ようでもあります。

◆戦争は決して肯定されるものではありません。しかし、その時の人々の必死に生きたあとが、現在の私たちの生活の基盤（遺産・レガシー）となっている部分もあります。戦後76年、その時の熊本市東部、その後の熊本市東部を振り返ってみましょう。

※体験者の証言を加えまとめました。しっかり調べ、聞き取りましたが、間違いや勘違いがあるかもしれません。どうぞお知らせください。

★☆☆青年学校に入学（一期生）された島崎さん、三菱熊本航空機製作所後の井関農機に就職された中村さん（この資料のもとになった講座の講師）に、当時のことについてインタビューさせていただきました。☆☆★

※資料の一部や「三菱重工業（株）熊本航空機製作所」跡地に関するデジタル（Web）マップなど、秋津公民館ホームページに掲載しています。

【時系列】熊本市東部の発展と戦争遺産（光と影）

★体験者の証言

★遺産・・・施設・インフラ・人材



1. 主な出来事

三菱重工業(株)熊本航空機製作所を中心に

S16(1941)9月 ◆陸軍省⇒三菱重工業「大型機(爆撃機)月産50機」の増産命令

※日本各地 候補地として検討作業。その中から熊本が選ばれることになる。

12月31日 ◆陸軍省と三菱重工業(株) から熊本現地視察

■熊本市健軍町に工場建設決定(黒石原、清水も候補地であった)

三菱重工業「名古屋航空機製作所」では、増産のための新工場建設の余地はなく、新たな工場立地を求めざるを得なかった(瀬戸内の姫路地区なども候補地だった)。

S17(1942)～ ◆土地の買収始まる

約 600 万㎡の広大な土地 ●工場建設地●付属飛行場
●青年学校●従業員の福祉厚生施設(社宅・寮・病院など)
※工場の土地だけでなく、働く人のための施設も必要。

※600 万㎡ ÷
(例) 桜木小学校約270個分

▲「買収に当たって、数百人に及ぶ地主さんに対し、集合場所を指定した「召集令状」が出され、市公会堂(市民会館の前身)にて知事・市長・地元選出の議員参列のもとに説明会が開催された。陸軍航空本部は地主に対して「時局の重大性をよく認識され、『土地の赤紙』と思って賛同を得たい」と協力要請を行っている。会場の市公会堂には憲兵・警察官が配置されており、耕作者等皆理解ある態度で協力し、異議を唱える者は一人もなく買収発表会は終了した。」 ←※時代背景、「赤紙」、「憲兵・警察官の配置」・・・などを考えると、「自由」にもの言える時代・雰囲気ではなかったであろうことが想像できる。※一坪(畳2枚分ぐらい) 宅地=約10円、畑=約5円(米60kg=約16円の時代)。現在米60kg=約2万円(約1250倍)なので、10円×1250で宅地一坪=約12500円(畑一坪約6250円)ぐらいでの感覚での買収か？

6月15日 ◆熊本航空機製作所の地鎮祭・起工式^{かんせつみんえい}(官設民営工場)

工場の建設だけでなく、名古屋航空機製作所の基幹社員(中心に進める社員)の受け入れのための社宅と技能工養成のための青年学校(S18年4月開校)などの関連施設の建設も進められる。田園風景に鳴り響く工事の音。

官設・・・作るのは国家(陸軍)

民営・・・工場運営は企業(三菱重工業)

●これだけの工場と関連施設が短期間にできたのは、航空機増産という至上命令(国家プロジェクト)により、軍の監督統制のもと突貫工事で行われた官設民営工場という特性と当時の時代(背景)がもたらした力によるか。

S18(1943)

◆3 月時の従業員数

- 名古屋(名古屋航空機製作所…本社のようなもの)からの転勤者…180人
- 熊本での採用者…300人
- 青年学校生徒…1500人

建設時略称:「カミク」
官設(かんせつ)、民営(みんえい)、熊本(くもと)

4 月 1 日

◆三菱重工業(株)私立 三菱熊本青年学校 開校 (第一期生 1,500 人)

●飛行機製造工場の技能者養成のための学校(1年間)●熊本県内だけでなく、九州一円から優秀な人材を集める。●「学校」であるが、「学科」を学ぶ生徒の面と「実習」で技術を習得し航空機製作にたずさわる労働者(労働力)としての面。全員入寮生活(1寮、2寮…)。●軍隊式で厳しい教育訓練が行われた。●昭和 20 年 4 月第三期生まで入校。(S20 年 11 月 30 日廃校)

「工場の建設」と「航空機の生産」が並行して行われていく。当初は名古屋から送られてきたものを熊本で組み立てる方式。緊急不足部品は、いわゆる「リュックサック部隊(何十人という組)が熊本—名古屋間の鉄道輸送屋が往復。工場設備の充実完成と並行して製造も進められる。

【島崎さん】(秋津国民尋常高等小学校を卒業(14歳)し、学校推薦により試験を受け合格。三菱熊本青年学校に入学)
(入学の時)「いよいよ国のためになる…と心の中ではうれしかった…」とのことです。←国全体で戦争へ向かう当時の世相がうかがえるようです。
「(全寮制)…すべてラッパで指示。6 時起床。寮庭でラジオ体操、寮の清掃をして朝食。朝食後出発準備。ラッパ集合で進む。軍隊同様の内容であった。午前中は 4 時間学科、昼食後実習工場に行き 13 時より実習。17 時に終了。寮に帰る。風呂に入り夕食。21 時点呼。毎日 1 年中同じ事。一年が終わり S19 年 4 月 1 日板金工場へ現場配属…」

◎【戦争遺産…人材】

厳しい訓練を受けた青年学校の生徒の中から、戦後熊本の機械加工、板金加工などの製造業のレベルアップと発展に貢献した人々が多数輩出した。

12 月

◆「付属飛行場」(通称「健軍飛行場」)完成

●滑走路…砂利敷 1500m×80m ●名古屋からの便が離着陸し、工場への部品の輸送、連絡に使われ始める。●完成機体の「試験飛行場」としての付属飛行場であったが、戦局が激しくなった S20 年 4 月には、本土決戦の基地となり実戦部隊が沖縄などへ飛び立つ「軍用飛行場」となっていた。

S19(1944)

1月1日

◆「熊本航空機製作所」として発足 ※略称「熊航」

4月29日

◆重爆撃機「飛龍」一号機進空式 (重爆撃機…より多くの爆弾類を搭載し強力な破壊力を持たせた航空機)

飛龍重爆撃機(全長約19m)



●4月29日=天長節(天皇誕生日)に試験飛行が行われる。熊本航空機製作所で組み立てられた「飛龍」一号機は、式典後、一期生1500人その他関係者が見守る中離陸。「感動で全員が思わず『万歳』と叫んだことは今でも脳裏を離れない…【島崎さん】」

【島崎さん】「(三菱名古屋航空機製作所の応援へ)S19年7月12日。青年学校1期生1500人中780人が、熊本の工場ができていないため、三菱重工業名古屋航空機製作所に応援に行きました。私もその中の一人でした。配属された職場は、燃料タンク加工職場でした。毎日毎日が燃料タンクのカシメ作業を2交替でやりました…。(同年)10月15日に熊本に帰り板金工場の生産に励みました。(名古屋での応援の)3カ月の期間中に伊勢神宮や養老の滝などの見物に行ったよい思い出もありますが、空襲があり避難家に入ったおそろしく怖い思い出も残っています。…」

← 戦況の悪化、物資不足などにより、工場の建設が計画通りに進まなかった模様

9月 ◆「徴用」／労働力の強制動員(学生にも)

●「徴用」…戦時などの非常時に、国家が国民を強制的に動員して、一定の仕事に就かせること、また、物品を強制的に取り立てること。●S19年になると「男子12歳～60歳」「女子12歳～40歳の未婚者」にまで拡大(戦争関連の仕事へ注力するために国民を強制動員)●熊本でも済々黌・熊中・鎮西・九学・尚綱・松橋など20校の旧制中学校生(現在の高校生)約4,000人や五高(現在の熊大)・七高(現在の鹿大)・熊工専(熊大工学部の前身)・宮崎工専などの学生(現在の大学生)も、労働力として動員(集められる)される。工場だけでなく、食糧生産のため農作業への従事も。その時に空襲にあうことも。学校で学習どころではなかった。

【昭和20年8月時点】

熊本航空機製作所で働いていた人数

●被徴用者(もともとの従業員など)12525人

●【徴用・動員】

- ・女子挺身隊 2012人
- ・大学・高専男子 806人
- ・中学男子 2095人
- ・中学女子 1520人

【合計】18958人

S20(1945)

3月 19 日

●工場の建設計画・・・
S17年～S19年までの
計画になっていたが、再々
見直し修正が行われてお
り、当初の計画通りには
進んでいない。S20年
(1945年)に入ると空襲
が激しくなり、増築はおろ
か、工場疎開が始まり、組
立工場以外はもぬけの殻
同然になっていた。

4 月

●本土決戦(沖縄での戦い)のための基地(軍用飛行場)となる。●「空挺特攻 義烈空挺隊(ぎれつくうていたい)」5月24日沖縄進攻した連合軍を撃滅するためにここから出撃(168人)。●「義烈空挺隊之碑」の慰霊碑(碑文・・・参考④)が付属飛行場跡地にあったが、県立女子大学(現県立大学)建設時に陸上自衛隊健軍駐屯地に移設される。

【中村さん】「沖縄戦が始まると(S20年3月下旬)、重爆撃機「飛龍」は、爆弾を抱いて夕方から夜半にかけて3～4基の編隊で、時間をおき、3回にわかれて(沖縄方面へ)飛び立っていき、明け方 フラフラと帰投(帰ってくる)していた。その時、機影が1～2機減っていたり、また練兵場(付属飛行場西側)との境の堀までオーバーしていたりする機影を時々見た。←激戦を終え帰ってきた様子、帰れなかった=命を失った様子が想像できます。

(戦局厳しく・空襲が激しくなっていく → 疎開)

米軍の攻撃機が大挙し県下各地を空襲

◆板金工場の部分が集中攻撃を受ける

●死者6人(長崎造船所から赴任して3日目の板金工場長と若手技師爆死)、負傷者13人。●3月27日機銃掃射を受ける(死亡1人)。●工場の分散疎開(熊本市内14カ所、大津3カ所、菊池9カ所、木葉、宇土、隈庄、御船などの地区の工場・学校・倉庫などを活用)。従業員も同地へ疎開。

【島崎さん】「昭和20年3月頃になると、米軍の空襲もいよいよ本格化し、健軍工場は当然攻撃目標となることが予想され、人身保護、設備の維持、生産の確保から疎開が決定。私たちは松橋女学校に疎開しました。毎日自転車で熊本駅まで行き(島崎さんは当時若葉在住)、汽車で松橋駅まで行き、駅から歩いて松橋女学校に行き仕事をしました。7月頃になると毎日空襲で防空壕の中より外に出ることができませんでした・・・」

◆付属飛行場(試験飛行場)が本土決戦の基地へ

◎【戦争遺産/施設・インフラ】工場建設とともに様々な福利施設も建設されていく。番号は「三菱重工業(株)熊本航空機製作所 関連施設 地図」(参考①)

☐現在の施設。

①熊本航空機製作所工場地区

- ☐ 健軍駐屯地(陸上自衛隊) ※S53=1978年
- ☐ 中央紡績(S53年閉鎖) ☐ 健軍東小・東町中
- ☐ 第二高校、県立盲学校・ろう学校
- ☐ 東警察署
- ☐ 公務員住宅(令和元年/一部が市民病院に)
- ☐ 県営東町団地 ☐ 東町小学校
- ☐ ショッピングモール(サンロード) など

②付属飛行場地区

- ☐ 熊本空港(S35・1960年)開港
～ S46閉鎖→現在地へ)
- ☐ 熊本赤十字病院(日赤)
- ☐ 免許センター(H11年・2001年現在地へ移転) など

⑧青年学校

- ☐ 井関農機(S55年・1980年移転)
- ☐ 税務大学校
- ☐ 自衛隊病院(青年学校の運動場跡)
- ☐ 東区役所
- ☐ 県営東本町団地 など ※S20=1945年(終戦)

⑬報国寮(職員独身寮)のちに三菱病院

- ☐ 民生病院(S20) ☐ 熊本市立民生病院(S21) ☐ 「熊本市市民病院」へ名称変更(S24)
- ※ 熊本市市民病院は、令和元年現在地へ移転

⑨⑩⑪寮・社宅 ☐ 住宅街、健軍商店街

⑮江津荘 ☐ 県立図書館・近代文学館

5月13日 ◆攻撃機 150 機来襲

- (熊航) 死者 8 人・負傷者 3 人
- 事務所・工場施設 25 棟被害

7月1日 ◆熊本市大空襲(深夜)

(熊航) ●社宅(水菱園、健菱園、健軍寮)、病院、機械設備、完成部品など相当の被害。
(熊本市) ●B29爆撃機154機が23時50分から翌2日の1時30分頃にかけて熊本軍用地帯・熊本駅および操車場・工場群等を目標に焼夷弾・爆弾投下・銃撃など約 1 時間にわたって波状攻撃1107トンを投下。火の海となった市街地は焦土となり大部分が焼失し、多数の死傷者。罹災人員36,314人、死者388人・重軽傷者475人・行方不明13人・家屋破壊・焼失9,077戸

- 7月4日 B29 戦爆連合
- 7月10日 小型機の戦爆連合約 140 機
- 7月24日 P51 など小型機約 1,500 機
- 8月5日 戦爆連合 380 機
- 8月7日 戦爆連合 250 機

【中村さん】「…家の前に大型の焼夷弾が落ち、直径 2m位の穴が開き、辺りに油が飛びちり燃え、慌てて消しました…」 ←家を直撃していれば、大きな被害が出たでしょう。市内全域空襲で大きな被害を受けました。

※「戦爆連合」…航空作戦において行われる戦術のひとつ。

8月10日 ◆熊本市大空襲(昼)

●午前 11 時頃、B29 および中・小型の戦爆連合 210 機の編隊は、7 月 1 日と同様、焼夷弾(焼き払うための爆弾)攻撃や機銃掃射(攻撃機から機関銃で敵をなぎ払うように射撃すること)を加える。市街地の破壊、焼失、市民の死傷者の被害はさらに拡大された。

P51 戦闘機(全長約 10m)



B29大型爆撃機(全長約30m)

※広島原爆投下の「エノラ・ゲイ」も B29



たくさんの爆弾が投下される様子



○三菱の水源地…工場、社宅、寮への給水を自給するために、深井戸 5 基・集水井 2 基・吸上げポンプ 3 基・貯水槽・ポンプ室などを設ける。

☐ 健軍水源池 (沼山津・秋田水源池とともに、熊本市水道の最大供給水源池)

○市電の延伸

S20 年 水前寺 - 健軍間 (3.3km) 単線開通

S27 年 複線化完了

○健軍商店街の発展

○電気とガス(東部方面のインフラ基盤)

・工場、青年学校、社宅、寮へ電力設備

・西部ガス春日製造所(西区春日二丁目)と

健軍三菱工場間の地下パイプライン

○道路の整備

○若葉排水路

○「(三菱)引き込み線」…水前寺駅近くから工場(自衛隊通りを通り、東町中学校付近)まで鉄道の線路を敷き、部品、機械類、物資、人員の運搬に使用(現在のように大型トラックやコンテナなどが発達していない当時、鉄道による輸送しかなかった)。自衛隊通り西側の歩道の幅が広いのは線路後の名残。また、「京塚バス停(都市バス)」が道の真ん中にあるようなのもその名残。※参考②のマップ

○人口増加による町の発展へ

小学校の新設の様子(次ページ)からも人口の増加、東部方面への発展の様子がうかがえる。

- 熊本空襲の被害（熊本市戦災復興誌「新熊本市史通史七巻」より）
- ・罹災面積 363万975平方メートル（市街地面積の30%）（109万8370坪）
- ・被災戸数 1万1906戸 （全焼10,416戸、半焼207戸、全壊1,249戸、半壊34戸）
- ・被災者 4万7598人 ・死者617人 ・負傷1,317人 ・行方不明13人

※ 新設小学校の様子は、
参考①の Google マップ
で確認できます。⇒

8月15日 ◆終戦

- S20年の終戦までに飛龍42機生産。
- 当初（S16年）の目標は「月産50機」であったが、戦況の悪化、空襲、疎開、物資不足などでかなわず。

【島崎さん】戦争が終わって（16歳）

「昭和20年（1945年）8月15日終戦。8月31日に熊本航空機製作所を退職しました。終戦後は、実家の農業を手伝いました。昭和21年1月末、『三菱重工業熊本機器製作所』としてスタートするので入社しないか』とハガキが来たので、連絡して履歴書を書いて持っていくと、明日より入社してよいということで、また三菱で仕事をしました。航空機の材料でスプーン、灰皿、弁当箱、鍋、羽釜などを作っていましたが、（経営が思わしくなく）昭和24年井関農機へ譲渡することになり、井関農機の社員として農機具生産の仕事を始めました。……」

11月30日 ◆私立三菱熊本青年学校廃校

※ S29(1954)まで その他の熊本航空機製作所関連の整理事業が進められる

S22(1947)

◆ 三菱重工業(株)熊本機器製作所設立（青年学校跡地に）

S24(1949)

◆ 熊本機器製作所設立を井関農機(株)へ譲渡

S35(1960)

◆ 熊本空港開港

S46(1971)

◆ 熊本空港閉鎖→現在の地（益城町）へ移転

戦後 ~平成10年までの新設校

- …東部地区 ○…それ以外
- 29年(1954)託麻原小
- 31年(1956)泉ヶ丘小
- 34年(1959)帯山小
- 34年(1959)白山小
- 36年(1961)若葉小
- 39年(1964)尾ノ上小
- 41年(1966)西原小
- 42年(1967)高平台小
- 44年(1969)楠小
- 46年(1971)桜木小
- 49年(1974)東町小
- 51年(1976)麻生田小
- 52年(1977)武蔵小
- 54年(1979)帯山西小
- 月出小
- 55年(1980)出水南小
- 57年(1982)健軍東小
- 57年(1982)城南小
- 58年(1983)田迎南小
- 58年(1983)弓削小
- 59年(1984)託麻南小
- 60年(1985)山ノ内小
- 61年(1986)楡木小
- 平成
- 3年(1991)長嶺小
- 7年(1995)日吉東小
- 10年(1998)桜木東小

あさひば だより 1月号

秋津 桜木 桜木東 若葉

地域情報版

熊本市配布文書第 16 号
令和 2 年（2020 年）12 月 15 日発行
発行者：秋津まちづくりセンター・公民館
熊本市東区秋津 3 丁目 15-1 電話 368-2200
akitsumachizukuricenter@city.kumamoto.lg.jp

★「あさひば」は、秋津まちづくりセンター管轄地域の愛称です。
㊦秋津、㊧桜木、㊨桜木東、㊩若葉

11月20日（金）と21日（土）に健軍文化ホールで「けんぶん文化祭」が開催されました。

21日の午前は、秋津ジュニアウインドオーケストラの小学3年生から6年生まで総勢35名が、話題の曲などを演奏。今年は、人前で演奏する機会が少なかったとのことで、演奏する子どもたちだけでなく、客席の保護者の皆さんにとっても貴重な機会のように、子どもたちの晴れ舞台をしっかりと撮影されていました。

けんぶん文化祭



昔の健軍地域のできごとを創作劇で継承

21日の午後は、健軍文化ホールの演劇ワークショップに参加した子どもたちとプロ劇団「転回社」による創作劇「僕らの健軍物語 ～工場が村にやってきた～」が上演されました。

劇の内容は、島崎久利さん（91）などから聞いた昔の健軍地域の話を元に、子どもたちが中心となって考えたそうです。

子どもたちの演技から、第二次世界大戦中やその後の健軍地域の様子がとても良く伝わってきて、観覧された島崎久利さんも、感激されていました。



島崎久利さん（左）と
息子の克也さん

← 秋津まちづくりセンターだより（令和 2 年・2020 年 1 月号より）
島崎さんの記事（健軍文化ホールの事業）

（郷土の偉人）「横井小楠の思想」と「戦争」

（もしかしたら、小楠の思想が 悲惨な戦争を阻止したかも・・・）

◆小楠は、「賤民の廃止」（地位向上）を主張した日本で初めての政治家であると「お雇い外国人」（グリフィス『ミカド—日本の内なる力』）から評価されている。あの時代において、先進的な人権尊重・人権感覚。奴隷解放宣言（1862 年）をしたアメリカ合衆国第 16 代大統領リンカーンに匹敵する思想（非常に残念なことに、リンカーンも小楠と同じく暗殺された）。

◆民主主義の土台となる「五箇条の御誓文」（福井における小楠の高弟である由利公正草案）の土台、明治新政府の民主的な新しい国づくりの方向性を示していた（頼りにされていた）とても偉大な郷土の思想家・政治家小楠。

◆『送別の語』の一説「堯舜孔子の道を・・・大義を四海に布（し）かんのみ・・・」とあるように、当時の欧米列強の「自国ファースト」の渦巻く国際状況の中、日本は「世界第一等の仁義の国」となり、「世界の世話役」をかってでて、国際関係の構築と世界戦争の危機を止める役割を果たさなければならない、「一発に壹万と貳万も戦死すると云う」ことはやめなければならない（戦争回

避）と主張している。世界的な視野に立ったスケールの大きい「平和論」であった。（参考：「横井小楠の『開国論』の形成過程を論ず」 堤 克彦さん）

◆しかし、新しい時代への変化、制度の変化が自分の利益を損なうことになる・・・など不満を持つ者たちに暗殺されてしまう。

◆歴史に「もし」はないが、小楠が暗殺されることなく、新政府での活躍がそのまま続いていれば、その後の日本で民主主義の思想がもっと具体化され、国のあり方も違って来たかもしれない。その後の日本で醸成された民主的なプロセスが悲惨な戦争（第二次世界大戦）へと向かう流れを阻止できたかもしれない・・・、300万人を超える戦死者の命を救えたかもしれない・・・。

◆今一度、「あさひば」（秋津・桜木・桜木東・若葉）校区にゆかりの深い横井小楠の功績・思想を学びなおしてはいかがでしょう（小楠は凶刃に倒れたが、その思想は死なない。今の時代に通じるところがたくさんある）。令和 4 年に再建される「四時軒」（しじけん）と、隣接する「横井小楠記念館」をぜひ訪ねてみてください。

【参考資料】

◆参考①マップ「三菱重工業(株)熊本航空機製作所関連施設跡」… 関連施設の位置を地図上で確認できます。

Google マップ <https://www.google.com/maps/d/edit?mid=IpuOB84Pkh4rWjWYwpzW-tTciDa5Yb84&usp=sharing>

◆参考②秋津公民館主催講座『戦後 74 年秋津(あさひば)の地名と戦争遺産』 令和元年実施 ←今回の資料の元。詳細な記述があります。

講師:中村 安幸さん(熊本地名研究会員・井関農機勤務) ←3期生と同学年

資料:秋津公民館 HP に掲載 https://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=11960&class_set_id=2&class_id=138

◆参考③島崎 久利さんからの聞き取り (青年学校第1期生・井関農機勤務)

◆参考④九州ヘリテージ 2007.10.04 Thursday 「旧三菱重工熊本航空機製作所」 組立工場の様子

<http://blog.kyushu-heritage.jp/?eid=545824>

◆参考⑤「義烈空挺隊之碑」の慰霊碑(陸上自衛隊健軍駐屯地)



義烈空挺隊とは、国軍最初の落下傘部隊である挺身第一連隊第4中隊を以て編成し、第二次世界大戦末期沖縄に進攻した連合軍を撃滅するため既に敵の手中にあった沖縄北(読谷)。沖縄中(嘉手納)両飛行場を奪還するため昭和20年5月1生日金峯山に日没する頃健軍飛行場を勇躍出撃し、両飛行場に強行着陸し、勇戦敢闘ののち玉砕した部隊のことである。この碑は、祖国の悠久を信じ殉国した先輩達を永遠に顕彰するため建立されたものである。

◆参考⑥熊本大空襲慰霊碑(メルパルク熊本近く)



熊本市は昭和19年11月21日以来、数回(年表参照)の空襲を受けた。なかでも、昭和20年7月1日夜から2日未明にかけてのB29による焼夷弾攻撃、8月10日等の空襲のため、水前寺、大江、本荘、春竹、本山、蓮台寺、八島方面、新市街、下通、水道町、安巳橋、千反畑、草葉、坪井、黒髪方面等、市内の約3分の1が消失。この間の罹災官公庁学校は県庁、県会議事堂、県立図書館、財務局、税務署、専売局煙草工場、熊本郵便局、熊本幼稚園、白川、黒髪、壺川、池田、本荘、日吉、熊本の各国民学校、済々黌、熊本中学、市立、大江、家政、熊本工業、市立商工、薬専、熊本医大等、罹災家屋総数11,000戸、罹災者数43,000人、死者数469人、負傷者数552人という。筆舌につくせぬ悲惨な被害を受けた被害者の霊を弔い、再び戦争を繰り返さぬよう祈念するため この碑を建立するものである。1980年4月27日 ライオンズ国際協会337-D地区年次大会

◆参考⑦「掩体壕」(えんたいごう)について

「平成30年3月27日版熊本市戸島町で発見された旧健軍飛行場無蓋掩体壕(第3報)」

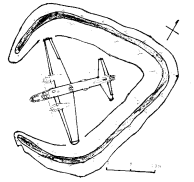
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

<https://kumamoto-senseki.net/images/2018/20180327.pdf>

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク

<https://kumamoto-senseki.net/>

※「掩体壕」で検索すると、いろいろな写真が出てきます。



◆参考⑧「健軍三菱物語」

<https://ameblo.jp/sorano-shinpei/entry-12634134317.html>